

カナンでの王制の確立までの約300年間、民は背信を繰り返して危機に陥ったが、その度に神は士師を起こされて民を救った。そして、12人の士師の最後に登場したのがサムソンである。

16章は、ペリシテに捕らえられたサムソンが最後にもう一度力を発揮して死ぬ場面である。サムソンは母の胎に宿る前から、「ペリシテ人の手からイスラエルを解き放つ救いの先駆者となろう」(13:5)と予告されていた。また、彼の父マノアの前に現れた主の御使いは自らの名を「不思議」(13:18)と言った。これらのことがすでに、サムソンという型破りな士師の活躍の根拠と方法を予言的に物語っている。

(1) サムソンの強さと弱さ (16:1-5)

サムソンは大変な怪力の持ち主で、獅子を裂いたこと(14:6)、多くの者を打ち殺したこと(14:19, 15:15)、ジャッカルを300匹捕らえたこと(15:4)などがあったが、その強さをガザでも見せつけた(16:3)。

しかし、同時にサムソンには際だつ弱さもあった。女性に対する弱さである。すでにペリシテ人であるティムナの女性にひかれるという経験があったが(14:1)、さらに敵地ガザで遊女にひかれ、またデリラという女を愛してしまうことになった。このデリラが、サムソンの怪力の秘密を聞き出すことになる。

(2) サムソンの失敗 (16:6-22)

デリラは三回にわたってサムソンの怪力の秘密を聞き出そうとするが、その度にサムソンはうそを教える(16:7, 16:11, 16:13)。同じことの繰り返しの中で、サムソンはデリラのねらいに気付いてもよいようなものであるが、しつこく迫るデリラについて真実を明かしてしまう。ティムナの女性になぞの意味を明かしてしまった経験(14:17)の教訓は生かされなかった。

サムソンは、髪の毛を切ると力が抜け、弱くなることをデリラに教えた。これは、髪の毛そのものに特別な力があつたというよりも、ナジル人(新共同訳聖書付録の用語解説を参照)としてささげられた者として髪の毛は神の力のしるしであったということである。サムソンの力は、主が共におられることから来るものであつた。サムソンは眠っている間にペリシテ人に髪の毛を切られてしまうが、そのとき「主が彼を離れられた」(16:20)。力を失ったサムソンは、目をめぐりだされて牢屋に入れられてしまう。

(3) サムソンの祈りと最後 (16:23-31)

サムソンは、喜び祝うペリシテ人の見せ物とされたが、その惨めさの中で、自らの強さも弱さも脱ぎ捨てて、ついに神に立ち返ることになる(16:28)。

髪が伸び始めていた(16:22)サムソンは、再び力を回復し、建物を支えていた真ん中の二本の柱を押した。すると建物は崩れ、サムソンは自らの死をもって多くのペリシテ人を殺した。「彼がその死をもって殺した者は、生きている間に殺した者より多かった」(16:30)とは、ただ数の問題という以上に、この死によってなした働きが敵を打つ士師としてのサムソンの最も大きな働きであつたことを示している。この働きが祈り(16:28)の後になされたことが、サムソンの怪力の本当の源を明らかにしている。

サムソンはいわゆる模範的な信者ではなかつたかもしれない。しかしそれだけに、彼の力が用いられたのは、ひとえに主の選びと恵みのゆえであつたことが明らかとなる。そして、死をもって大きな働きをなしたこのサムソンの姿が、十字架の主イエスの姿と重なり合うのは、まさに「不思議」である。(石原知弘)

テキスト 士師記16章
参照カテキズム 子どもカテキズム問11, 13, 76

〔単元のねらい〕

先週に続いて士師物語である。ギデオンに比べ、いっそう型破りなサムソンの物語は、子ども達の心をとらえて離さないでしょう。そこで湧き起こってくる、神の自在な力と不思議な導きに対するすなおな「驚き」を大切にしておあげていただきたい。そのためにまず語るものが本当に驚いていただきたい。思いを超えた神の御業への驚きがないところに、神への真実の畏れと信頼が生まれることもないでしょう。また説教では、サムソンの悔い改めに至る心の動きをやや敷衍してみた。このサムソンの祈りに焦点をしばって説教を展開してみるのも、このテキストの異なる輝きを引き出す有益な方法かもしれません。

「愚かなサムソン」

先週はギデオンと300人の勇士によってメディアン人の大軍を追い払ったお話を聞きました。イスラエルの人々はこの出来事を通して、改めて神様の人々への愛の深さと、そのお力の偉大さを知って、神様に従う歩みを始めました。でもまたすぐに道を踏み外してしまって、主の目に悪とされることを行ってしまうのが、罪人の悲しいところです（士師13：1）。そんな彼らに対して神様はペリシテ人という強い民族を起こして、彼らがイスラエルを苦しめるのを、40年の間黙って見ておられました。しかし主なる神様はイスラエルを見捨てたわけではありません。やがてまた彼らのために、サムソンという若者を士師としてお立てになって、ペリシテ人に対抗する勇気を与えられました。そしてサムソンに与えられたのは、ライオンをも手で引き裂く怪力でありました。

彼はその怪力に物を言わせて、だれはばかすることなく自由奔放に行動しました。彼は怒りっぽい性格で、とっても乱暴者でしたので、すぐにペリシテ人と喧嘩になっては、次々と殴り殺してしまっています。神様にいただいたその怪力を、そうやって自分のうっぷんを晴らすためだけに使っていたサムソンです。女にもだらしなくて、本当に問題ばかり起こすので、イスラエルの人たちの中にも

迷惑に思う人はいたのです（士師15：9以下）。

さてそのように「私に勝てるものなどいるものか」とさんざんいばっていたサムソンですが、やられっぱなしのペリシテ人たちはある策略を思いついて、サムソンの愛していたデリラという女性に近づきました。彼らはデリラに言いました。「サムソンをうまくだまして、あの怪力の秘密を聞き出してくれ。そうしたらお金をたくさんあげよう。」

そこでデリラは甘えた声でサムソンにたずねました。「あなたの怪力の秘密を私だけにこっそり教えて下さいな。」サムソンは答えます。「新しい弓の弦7本で縛ればいい。そうすれば弱くなって普通の男のようになってしまうよ。」でもこれは上手なうそでした。デリラはサムソンの言葉どおりにしたのに、サムソンはそれを簡単にちぎって脱出してしまったのです。

デリラは怒って言いました。「あなたはうそをついたのね。本当のことを教えて下さい。」サムソンは答えました。「まだ使ったことのない新しい縄で縛ればいいよ。」しかしこれも効果はなく、サムソンは簡単に縄を断ち切ってしまいました。「またうそをついたのね」とデリラは怒ります。そしてまたサムソンはだまします。「長い髪の毛

を機織りで織り込めばいいのだよ。」デリラはまんまとだまされます。こうして三回もだまし合いが続きました。

とうとうデリラは真っ赤になって怒り出し、「あなたは私を愛していないのね」と言い出しました。そして「本当に愛しているなら秘密を教えて」と毎日しつこくたずねるのです。サムソンはもううんざりしてしまって、とうとう秘密を打ち明けてしまいました。「私は生まれる前から神様に身をささげているナジル人だ。その印に、生まれてから一度も髪を切ったことが無い。実はこの髪の毛が秘密の元なのだ。もし髪の毛を剃られてしまったら、私の力は抜けてしまって、普通の人のように弱くなってしまう。」

こうしてついにデリラはだまし合いに勝利しました。さあこうなったら急がなきゃ。早速デリラはペリシテ人たちをこっそりと呼び出しました。そしてひざ枕にサムソンを眠らせ、「ふふふ、よく眠ってるわ」と確認して、彼の長い髪の毛七房を、スパッとかみそりで剃ってしまいました。そうして大声で叫びました。「サムソン、ペリシテ人があなたに!!!」するとサムソンは飛び起きて、「よし、ひと暴れしてくるぜ」といつものように飛び出していきます。しかし彼の頭にはもう髪が無い。だから主なる神様の力はもう彼から離れてしまっているのです。でもサムソンは気付かない……。あわれサムソンはペリシテ人に捕らえられ、目をえぐり出されてしまいました。そして奴隷として連れて行かれ、牢屋でうすをひかされました。

さてペリシテ人たちは大喜びで、彼らが拝んでいる偶像の前に盛大ないけにえをささげて、「我らの神様が、につっきサムソンを渡してくださった」と大騒ぎ。そして「サムソンをここに呼んで見世物にしてやろう」と言い出し、3000人も

人々が集まっている家で、サムソンは大いに笑いものにされてしまいました。しかしその時、人々は気付かなかったのです。サムソンの髪の毛が、もうすでに伸び始めていたことを。

目の見えないサムソンは言いました。「私を引いて行って、この家を支えている太い柱につかまらせてほしい。」そうして両の手を柱にかけると、サムソンは心からの祈りを神様にささげました。「神様、私は愚かでした。どうか赦してください。私を思い起こしてください。そしてどうかもう一度だけ、私に力を与えてください。」自分の怪力に頼ってばかりで、それを神様から与えられた賜物だということを忘れていたサムソンです。でもそのサムソンが、今すべての力を失って、はじめて神様の助けを求め、心から神様に頼る者になりました。そうしてはじめて、心の底からの願いをこめて神様に祈ったのです。神様はそのような祈りを聞き逃す方ではありません。

サムソンが力を込めて柱を押すと、建物は音を立てて崩れ落ち、そこにいたすべての人々は下敷きになって死んでしまいました。こうしてサムソンは自分の身を犠牲にして、多くのペリシテ人を打ち倒したのです。

本当に愚かで乱暴者のサムソンでした。しかし主なる神様は、そんな彼を士師としてお選びになる方です。そして神様は、彼の生涯を台無しにすることになった大失敗さえも用いて、イスラエルの人々をペリシテ人から救い出されます。この神様の救いのご計画は、私たちの思いをはるかに超えた、自由で型破りなものです。このご計画に従って、イエス様は十字架にかけられ、死んで、そして甦ってくださった。何よりこれが、私たちの思いを超えた驚きだと言えるでしょう。(坂井孝宏)

【今週の暗唱聖句】 イザヤ書55章9節

天が地を高く超えているように
わたしの道は、あなたたちの道を
わたしの思いは、あなたたちの思いを、高く超えている。

〈ねらい〉

力は強いが心が弱いサムソンでしたが、最後には神様に心からお祈りをしたので、神様はサムソンの祈りを聞き入れて下さいました。サムソンのように素直なお祈りができるようになろう。

〈展開例〉

①「サムソンの力の秘密は何ですか？」

(答え)「そうだね、長い髪の毛です。」

②「力の秘密をデリラに教えたサムソンは、どのようになりましたか？」

(答え)「そうだね、サムソンは髪の毛を切られてしまいました。」

③「髪の毛を切られたサムソンはどうなりましたか？」

(答え)「そうだね、力がなくなったサムソンは、ペリシテ人に捕まり、目をえぐられて牢屋に入れられてしまいました。」

④「ペリシテ人の見せ物とされたサムソンは、最後にどうしましたか？」

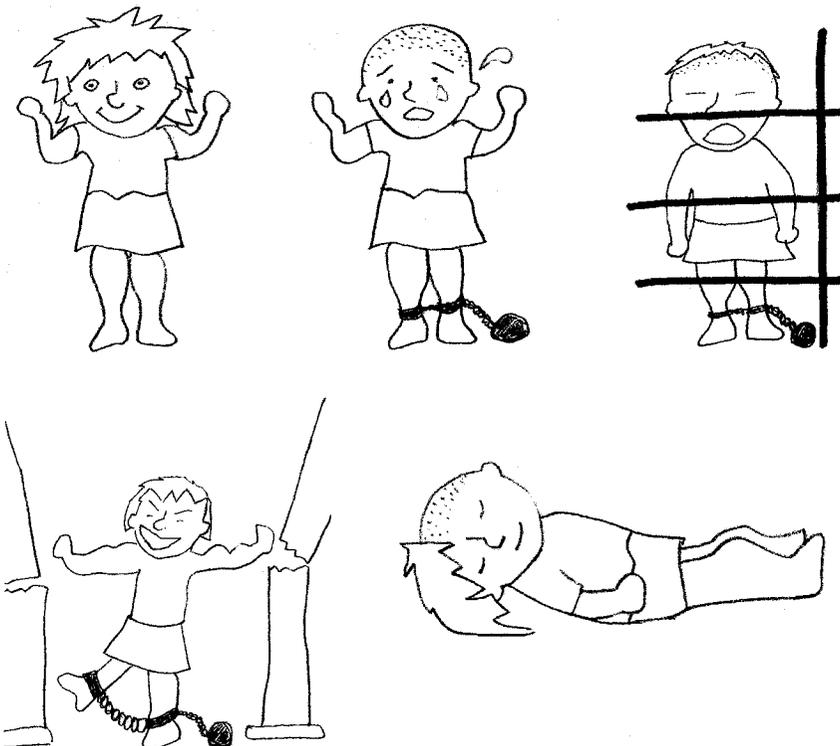
(答え)「そうだね、サムソンは心から神様にお祈りをして、神様から力を受けることができました。私たちも心からまことの神様にお祈りを捧げましょう。」

〈祈り〉

今日も教会に来ることができて感謝します。サムソンさんのように、心からお祈りができるようして下さい。

〈やってみよう〉

色を塗って切り取り、お話の順序に合わせてカードを並べてみよう！



〈ねらい〉

サムソンの両親は、彼をナジル人として神様に捧げた。神様は彼に特別に力をくださったが、粗野なサムソンは失敗を繰り返す。とうとう自分の力の出所を明かし、力を失い、ペリシテ人の虜にされたが、最後のときにもう一度神様からいただいた力によってペリシテ人を打ち、イスラエルの人々を守った。サムソンの破廉恥な性格、行動にもかかわらず、神様は彼を用いてくださったことを通して、神様はどんな人をも神様のご用にお用いくださることを学ぶ。

〈展開例〉

イスラエルの人々が神様から離れて悪を行って神様を怒らせたので、神様は偶像に仕えるペリシテ人をイスラエルの国に送って、イスラエルの人々を苦しめられた。

その頃、イスラエルの国にマノアという人がいて、あるとき主の御使いが彼らにあらわれて、子供が与えられることを告げました。また、その子は胎内にいるときからナジル人（「聖別された者」の意、民数記6：1～に詳しい）として神様にささげられているので、その子の頭にかみそりを当ててはならないと両親に命じました（士師記13章1節～5節）。こうして、サムソンには神様から特別の力が与えられていましたので、あるとき、ぶどう畑で1頭の若いライオンに出会い、ほえながら向かってきて、サムソンは手に何も持っていなかったのですが、ライオンをつかまえてやっつけてしまいました。このように強い力は、神様が彼に与えてくださったものですが、当時、イスラエルの人々を苦しめていたペリシテ人をサムソンはその力でやっつけました。

この力の強いサムソンをなんとかやっつけたいペリシテ人は、サムソンが好きだったデリラという女の人を味方にして、サムソンの力を奪うにはどうしたらよいかをサムソンに聞くように頼みました。サムソンは「乾いていない新しい弓弦七本で縛ればいい。そうすればわたしは弱くなり、普通の人のようになってしまう」とデリラに言いま

した。これを聞いたデリラはさっそくペリシテ人に伝えたので、彼らはまだ乾いていない新しい弓弦をデリラのところに持ってきて、それで眠っているサムソンを縛りました。そして奥の部屋には待ち伏せる者を置いて、彼女はサムソンに「サムソン！ ペリシテ人があなたに！」とサムソンを起しました。ところが目を覚ましたサムソンはその弓弦を簡単に切ってしまったのです。デリラは別の日にまたサムソンに聞きました。するとサムソンは、「まだ一度も使ったことのない新しい縄で縛ればわたしは弱くなる」と言いました。デリラはそうしましたが、目を覚ましたサムソンはその縄も切ってしまいました。デリラは今度も失敗だったと知ると、またサムソンに尋ねました。こんどはサムソンはこう言いました。「わたしの髪の毛七房を機の縦糸とともに織り込めばいいのだ」と言いました。さあ、今度は本当でしょうか？ いやいや、やっぱり今度もサムソンはそれを簡単に引き抜いてしまったのです。でも、どうでしょう。こんどの場合サムソンは「わたしの髪」と言っています。本当のことにだいたい近づいてきたとは思いませんか。そうなんです。サムソンはとうとう4回目になってデリラに本当のことを言うてしまうのです。お父さんとお母さんが神様と約束して守ってきた大事な髪の毛をそってしまえばあの怪力は取り去られることを白状してしまうのです。デリラはサムソンが寝ている間にその髪の毛をそりました。そして「サムソン！ ペリシテ人があなたに！」とサムソンを起こしました。サムソンは「いつものように出て行って暴れてくる」と言いました。でももうあの力は彼から取り去られていたのです。弱くなってしまったサムソンはペリシテ人に捕まえられました。でもサムソンは、最後にもう一度神様から力をいただいて、ペリシテ人が大勢いた建物のなかで柱を壊して屋根を落として多くのペリシテ人をやっつけたのです。

〈いのり〉

神様からいただいた力を神様のご用に使うことができますように。アーメン。

〈ねらい〉

先週に続き士師「サムソン」の信仰について学ぶ。ナジルびととして特別な誓願のもとに生まれたサムソンには型破りの怪力が与えられていた。それを神のために用いるか、あるいはイスラエルの為に用いるか、聖書はむしろ自分勝手にそれを用い誓願を裏切ったサムソンを描いているが、愛人デリラに裏切られてペリシテ人に捕らえられ両眼をえぐられた時、神に立ち返ったサムソンを信仰の人として記している。人間は誰も間違いを犯すが、最後に神に立ち返る者が救われることを学びたい。

〈展開例〉

- サムソンはライオンを引き裂くほどの力を持っていました。どうしてそんな力があつたのでしょうか。考えてみましょう。
 - 神様から与えられた。
 - 小さい時から運動をしていた。
 - 生まれつきの身体。
 (ナジルびとのことにふれてもよい)
- サムソンはその力を何に使っていましたか。
 - 神様のために使っていた。
 - 自分のために使っていた。
 - イスラエルの人びとの為につかっていた。
- そんなサムソンに彼女が出来ました。デリラと言う名前です。どんな人でしたか。
 - 信仰のあつたイスラエル人。
 - ペリシテ人で可愛い人。
 - イスラエル人できれいな人。
 (デリラとはおもわせぶりの意味)
- ペリシテ人はデリラにサムソンの怪力の秘密を探らせました。「わかったら沢山のお金を出す」と言いました(250万円ぐらい)。サムソンは怪力の秘密を明かしましたか。
 - すぐ明かした。
 - 直ぐには明かさなかった。
- そしてサムソンはデリラに何と言いましたか。

a：力が出るものを食べているから。食べるのをやめたら弱くなる。

b：弓の弦七本で縛ればよい。

c：強い酒を飲ませればよい。

6. 嘘を言ったサムソンは二番目に何と言いましたか。

a：一度も使ったことのない新しい縄で縛る。

b：一度も使ったことのない新しい毛糸で縛る。

c：一度も使ったことのない新しい絹糸で縛る。

7. 嘘を言ったサムソンは三番目にも嘘をいいました。何と言いましたか。

答は16：13ですが省略。

四度目にあまりにしつこいデリラの質問に負けて本当のことを話してしまいます。本当の秘密とは……

a：アキレス腱。

b：頭の毛。

c：頭のはげ

デリラに負けたサムソンはどうなったでしょうか(16：21を読ませる)。

捕まえられ両眼をえぐられ、大喜びのペリシテ人に見せ物にされたサムソンですが、最後にしたことは何でしょうか。

28節のサムソンの祈り(キーワード)を中心に聖書を読ませたい。そして士師としての最後の奉仕を死をもって捧げたことに注目させたい。教師は一方的に語らず生徒との会話の中で進めてください。

〈祈り〉

※生徒に祈らせてもよい。

天の神様。今日はサムソンの信仰について学びました。私たちも何度も失敗を繰り返します。こんな私たちを導いてください。イエスさまの聖名によってお祈りします。

〈ねらい〉

主の不思議な御業を仰ぐ。

〈展開例〉

1. 聖書をもう一度読む

2. 分かち合い

Q. 説教を聴いて教えられたこと、心に響いたこと、実行しようと心を動かされたことは？

Q. 分からなかったことは？

3. 質問例

※質問例は、それぞれのクラスの实情に合わせてアレンジしてください、解答例は子供達の答えを補足したり、教えたりするのにお用いくださいと思います。

Q. 怪力サムソンは向かうところ敵なしでしたが、彼には一つの弱点がありました。それは何でしょうか？

→女性に対する弱さ。自らの立場を忘れて三人の女性にひかれた結果、どの場合も命の危機にさらされた。

Q. サムソンはデリラを愛していました。人を愛することは素晴らしいことです。ただ彼女に対して、サムソンはどのような態度を取るべきだったでしょうか？

→主を第一とする決断。デリラの愛を失うことを恐れて三度も嘘をついた挙句、敵であるペリシテ人に秘密を打ち明けてしまった。

Q. サムソンが受けた仕打ちは自業自得な所がありますが、最後に悔い改め、「彼がその死をもって殺した者は、生きている間に殺した者より多かった。」(30節) という程の敵に

対する大勝利をもたらしました。この事は、私達の力の源がどこにあると教えているでしょうか？

→主にこそ私達の力があると教える。そもそもサムソンの怪力は、ナジル人として主にささげられた者として、主が共におられることから来るものであった。

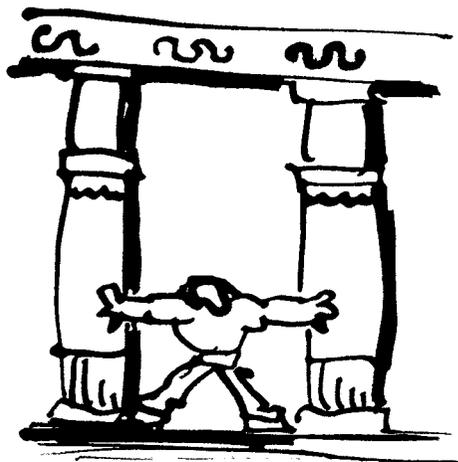
Q. 救助者サムソンの誕生を予告した主の御使いは自分の名前を「不思議」(13:18)と言いましたが、大変な力と共に愚かさをも持った士師サムソンと彼の死は、人の思いを超えた不思議な神様の御業でした。聖書の中で思い当たるものが他にあれば挙げてください。

→主の天使が「この子は自分の民を罪から救うからである。」(マタイ1:21)と予告したイエス様の十字架の死。

4. お祈り

主を第一とした信仰生活を送れるように。

※一人一人に祈りの課題を出してもらったり、自然に浮かび上がってきた課題を祈っても良いと思います。



わたしの神なる主よ。
わたしを思い起こしてください。